

令和7年度研修 評価

研修名	在宅看護（入退院支援）研修会 公開講座					
領 域	訪問看護	会場	新潟県看護 研修センター	受講料	会 員：2,200 円 非会員：6,600 円	
対 象	募集数	応募数	受講数	会員数	非会員数	
	第1回	20名	6名	5名	5名	0名
	第2回	20名	18名	18名	17名	1名
	第3回	40名	21名	20名	17名	3名
	第4回	40名	24名	23名	19名	4名 受講延べ66名
日 時	令和7年6月12日（木） 7月24日（木） 10月18日（土） 11月15日（土） 9：30～15：30 または 9：30～16：30					
ねらい（目標）	1. 地域連携に必要な知識と在宅支援システムを学び、実践に活かすことができる 2. 療養者およびその家族が安心して入退院できる支援方法を学び実践に活かすことができる					
講 師	1 丸山径世 新潟市居宅介護支援事業者連絡協議会 会長 1 白倉透規 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院 地域医療介護連携センター入退院支援看護主任 慢性心不全看護認定看護師 2 井上智代 新潟大学大学院 保険学研究科 准教授 2 中野美佳 訪問看護ステーションふくふく 管理者 緩和ケア認定看護師 3 中野美佳 訪問看護ステーションふくふく 管理者 緩和ケア認定看護師 3 阿部行宏 山の下クリニック 院長 4 宇都宮宏子 在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス					
内容・方法	○講義 1日5または6時間 講義、グループワーク、演習					
結 果	○受講割合 第1回 25.0% 第2回 90.0% 第3回 50.0% 第4回 57.5% 平均 55.7% 【第2回のみ達成・未達成】 ○アンケート結果 ・理解度 100% 【達成・未達成】 ・自己課題の達成度または研修目標の修得度 100% 【達成・未達成】 ○受講者の意見 ・臨床で経験されたことを踏まえての講義だったので、理解しやすかった。 ・地域と連携した患者の継続看護の事例など今後の患者の問題抽出し在宅での支援方法などに活かせるようにしたい。 ・多職種との連携の大切さやグループワークを通して情報を共有できた。 ・在宅療養に関する制度や人生の最終段階の考え方や定義を学べただけでなく、在宅ケアを通じて住み慣れた環境で暮らし続けることができる社会をどのように作れるか考えさせられた。 ・自宅看取りは可能という事例をたくさん紹介して頂き、最期まで過ごすということはどういう事なのか学びを得ることが出来た。 ・普段から行っていることの繰り返しということが分かった。本人の思いを引き出せるように関わっていききたい。					

	・訪問看護において大切なことは患者、家族双方の意思を尊重することであり、看護師の思いが強すぎてもいけないと学ぶことができた
評 価・総 括	○目標達成の評価：【研修会の目標は達成した・達成しなかった】 ・各講義に対する満足度・達成度・修得度は高く、看護師として地域連携、入退院支援、訪問看護、地域医療のあり方を学び、受講者自身の課題や役割を認識することができ、目標は達成できた。 ○総括 ・地域と病院をつなぐ構成になっており、様々な立場で活躍されている講師による講義は、看護職としての視野を広げることができる。利用者に伴走するには、病棟、外来、在宅での情報共有も大切であり、利用者の思いを叶えることに繋がらなければならない。いろいろな立場にいる看護職に有意義な研修となっていた。
課 題	入退院支援は、病院・施設・在宅をつなぐ重要な支援であり、今後も在宅医療をつなげる立場として、必要な研修であるが、参加割合が増加しない。研修に参加することで、実践の現場の理解もできる。それぞれの立場での役割を理解し、意見交換ができる場でもあるため、病棟看護師のみならず、訪問看護師、外来看護師、施設看護師にも積極的に参加してもらえようような取り組みが必要である。
担当者	訪問看護推進委員